

記者提供資料
平成30年(2018年)8月17日
福祉局 あかし保健所 保健予防課

腸管出血性大腸菌感染症 0121 の集団発生について

平成30年8月7日、神戸市内の医療機関から1歳児の腸管出血性大腸菌感染症 0121 の届出があかし保健所がありました。

あかし保健所では、患者と接触のあった者の特定をすすめ、健康調査、検便を実施したところ、患者の家族から1名、患者が通所していた明石市内の保育所の園児3名、職員1名、園児の家族2名、合計7名から同じ大腸菌を検出しました。いずれも症状は軽く、快方に向かっています。

現在も感染経路等に関する調査を行うとともに、引き続き、接触者について健康調査、便検査を実施しています。また、保健所では保育所や患者・家族に対し、施設の消毒や手洗いの徹底等感染拡大防止を指導しています。

1 届出患者の概要

患者 明石市、1歳代 女性
 発症日 平成30年8月1日
 診断日 平成30年8月7日
 診断方法 検便による0121(ベロ毒素VT2)の検出
 症状 下痢、血便、腹痛

2 発生経過等

8月1日 軟便1~2回、粘液便3~4回のうち血便、排便時腹痛あり。
 8月2日 市内小児科受診。
 8月3日 症状が改善されず、届出医療機関において検便を実施。
 8月7日 腸管出血性大腸菌感染症を診断され、あかし保健所が発生届受理。
 8月8日 あかし保健所より患者、保育所に調査、指導実施。
 陽性者については、順次、家族に調査、指導を実施中

3 保健所の対応状況

- ・接触者には検便を実施し、陽性者については、医療機関受診を指導しています。
- ・患者の家族等の健康調査及び検便を実施し、患者宅の消毒及び手洗い等の感染拡大予防について指導しています。
- ・患者が通園している保育所のトイレ等施設の消毒及び手洗いの徹底、プールの延期等感染拡大予防対策について指導しています。
- ・保育所については、全園児、職員を検査対象とし、検査実施52名中、陽性者職員1名、園児3名となっており、健康調査、消毒等の指導を実施しています。(2018年8月16日現在)

4 市内の腸管出血性大腸菌感染症の発生状況

2018年8月16日現在

年	0157	0121	0103	0111	その他	合計
2015年(H27)	5				1	6
2016年(H28)	1			1	1	3
2017年(H29)	1				1	2
2018年(H30)	1	8				9

*単位：人

*2018年については第33週まで

5 腸管出血性大腸菌感染症について

【特徴】

大腸菌は、家畜や人の腸内にも存在します。ほとんどは無害ですが、このうちいくつかのものは、ベロ毒素を産生し、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群（HUS）を起こす腸管出血性大腸菌と呼ばれるものがあります。代表的な O157 のほかに O26 や O111、O121 等が知られています。

感染力が強く、非常に少ない菌数で感染し、大腸で増殖するときに毒素を産出します。潜伏期間は、2～14 日です。感染力が強く非常に少ない菌数で感染します。

感染している検査では陽性でも、症状が現れない場合を無症状病原体保菌者といいます。保菌している間は他者に移す可能性があります。

【感染経路】

菌に汚染された飲食物や糞便を触った手等を介して感染します。

【主な症状】

腹痛と水様性下痢及び血便です。嘔吐や 38℃ 台の高熱を伴うこともあります。

6 予防方法等

- ・調理や食事前、トイレの使用後には、手を石鹼と流水でよく洗う。
- ・乳幼児のオムツ替え、沐浴後等は特に下痢症状があるときはこまめに手洗いをする。
- ・トイレやドアノブ等手の触れる機会が多い場所は消毒液を浸して絞った布などでよく拭く。
- ・タオルの共用は避ける。
- ・食品は内部まで十分加熱して食べる（中心温度が 75 度、1 分以上）
- ・まな板・包丁などの調理器具はよく洗い、塩素系消毒剤などで消毒する。

報道機関各位におかれましては、感染症法に基づき、患者及び患者家族等について、本人等が特定されることがないように、格段のご配慮をお願いします。

問い合わせ：あかし保健所 保健予防課 （担当：朝野・小林） 電話 078-918-5421